

議員（小川 保）

失礼します。9番 小川 保です。

本日は、いつ起こるか分からない巨大地震の備えは、そして新さぬき浜街道にアクセスする県道205号線は、以上2項目を一問一答にて質問いたします。我が国経済は新型コロナオミクロン株感染症対策としての自粛などによって、個人消費並びにそれによって影響を受けた経済活動が低調となりました。経済はあらゆるステークホルダーによって影響されることはご承知のことでしょうが、この状態から次のステージとなった場合、地方自治体は素早く対応できるのかなど、今後の準備態勢が肝要だと考えております。そんな中ではありますが、一方ではいつ起こるか分からない巨大地震の発生によって、私たちの生活は避難所の設備・機能・システム運営はなど、コロナに傾注したことによって避難所での生活想定が勢い、置いていかれてしまいような懸念があります。

そこで、質問いたします。

現状を確認します。あらゆる災害が発生した際の避難所、多くの町民が緊急的に避難し、生活をしていく場所を設定されていますが、全ての場所とそこでの生活環境、インフラなど必要最低限の整備状況をご説明いただきたい。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の災害が発生した際に町民が避難生活を送る全ての避難所と、その生活環境、インフラなどの整備状況についてのご質問に答弁をさせていただきます。

災害対策基本法第49条の7に規定される指定避難所は町内に12か所あり、その場所は多度津町リサイクルプラザ、県立多度津高等学校、多度津小学校、多度津中学校、豊原小学校、豊原幼稚園、四箇小学校、町民健康センター、白方小学校、高見島研修センター、佐柳いこいの家、佐柳本浦住民会館であります。指定避難所としての生活環境につきましては、各施設において県地域防災計画に基づく備蓄品を整備しているほか、パーティションや簡易トイレ等を備蓄し、避難生活を送る際に少しでも快適となるよう整備を進めているところでございます。また、インフラにつきましては各施設管理者に確認したところ、電気及び水道については全ての施設で整備されており、ガスについては島嶼部を除く施設で整備されているとのことであります。加えて、新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策のための衛生用品につきましては、マスク、手指消毒用アルコールや非接触式体温計等を備蓄しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

次に、それぞれの場所、設備のライフラインについて質問いたします。現在の避難所でライフラインが止まった場合の代替システムは、いかようになっているのでしょうか。

総務課長（泉 知典）

小川議員の避難所でのライフラインが止まった場合の代替システムについてのご質問に答弁をさせていただきます。

指定避難所につきましては、ライフラインが止まった場合に代替システムと呼称されるような大規模な設備は現在のところ整備されておりませんが、先ほど町長の答弁で申し上げましたとおり、県地域防災計画に基づき、飲料水をはじめとした備蓄品を適切に整備してまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。

ライフラインの代替システムは整備していないということですが、人々の生活には電気、水道、衛生などライフラインが必要ですが、再度確認いたします。その中で特に電気が確保できていることは非常に重要であり、水道施設を動かすのも電気が必要であります。広範囲での停電状態、つまりブラックアウト、日本で初めてのブラックアウトはいつ発生したか。皆さん記憶されておりますか。これはつい3年余り前、2018年9月6日、北海道胆振東部地震、これにおいてブラックアウトが発生いたしました。広範囲において全て電気供給がなくなったということです。急ぎ復旧をして、1日後には徐々に回復していったということですがけれども、送電が途絶えた場合、復旧までに不便で不安な状態が想像されます。その間の供給設備は多度津町においてはいかようになっておりますか。

総務課長（泉 知典）

小川議員の再質問の送電が途絶えた場合における電気の供給設備についてのご質問に答弁をさせていただきます。

停電の際の電気の供給設備につきましては、多度津中学校のみではあります。建て替えの際に非常用発電機を設置し、災害時に体育館等の照明等に利用できるよう整備しているほか、体育館のある指定避難所については多数の避難者が想定されているため、令和2年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、全ての小・中学校及び県立多度津高等学校の6施設に蓄電池を整備したところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

本年は前回の南海巨大地震から76年目です。地震、津波などは地球規模の

自然のことですので断定はできませんが、確率からいって発生の可能性は否定できません。そして、自然の発生に対応できる設備は公助でしか設置できません。そのため、県や町などは公共施設の建物などへの耐震化を進めたり、海岸や河川の強化整備をしていることだと承知しております。しかし、幾ら万全の措置を取ったとしても想定外の事象が発生してしまいます。

ゼロカーボンシティ、多度津町は今回宣言をいたしました。まずは再生可能エネルギーへの転換を1歩ずつ、地に足をつけて進めていくことが肝要かと思えます。太陽光発電、風力発電などにより発電、蓄電でもって供給が可能になれば、そんな設備があればと考えますが、いかがでしょうか。

総務課長（泉 知典）

小川議員の停電した場合の再生可能エネルギーによる発電、蓄電可能な設備の導入についてのご質問に答弁をさせていただきます。

先ほど申しあげました全小・中学校及び県立多度津高等学校の6施設に配備した蓄電池につきましては、太陽光による充電が可能であり、スマートフォン約300台分の充電やLEDライト、これは1灯ですが、約30時間分の点灯ができる電気が繰り返し使用できるものとなっております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

もちろん設備は、設置経費のほかに維持費はかかります。再生可能なエネルギーだとしても同じです。現在の蓄電池アイテムは4～5年経過すれば、やがて劣化などにより交換が必要となりますが、それに対応できる研究が進み、次第に安価で性能の確かな製品が開発されてきておるようです。そこで、予算のことを考慮して毎年1基ずつでも整備していくのはどうでしょうか。2031年までの10年間で10基整備できます。公園や広場、避難所などの送電がストップして一斉にブラックアウトしても、自前の電源が確保できれば明かりも携帯の電源も確保でき、人々を安心させてくれる場所になります。全箇所一気に導入とは申しませんが、先進の装置を導入していただけるよう提案いたしますが、いかがでございましょうか。

総務課長（泉 知典）

小川議員の先進装置の導入についてのご質問に答弁させていただきます。議員ご指摘のとおり、蓄電池につきましては日数が経過するごとに電力容量が低下しますので、適切な時期に更新する必要があります。現在整備しております蓄電池が更新時期となりましたら、類似製品を比較検討し、各施設管理者との協議の上、導入に向けて検討してまいりたいと思えます。

以上、答弁とさせていただきます。

建設課長（三谷 勝則）

小川議員の先進の装置を導入していただけるよう提案いたしますが、
てのご質問に答弁をさせていただきます。

建設課で整備を進めております道福寺公園につきましては、災害発生時の一時的な緊急避難場所とすることから、公園、施設は町民の皆様が避難時に少しでも不安にならないように、議員のご質問にありました電気、水道、衛生などのライフラインが必要と考えます。今回整備します道福寺公園のトイレ施設は通常時は下水道と接続されており、災害時は汲み取り式トイレとして利用できる構造となっております。また、避難時の緊急的な電気等の供給においては、公園の照明施設の一部を太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーを活用したものや携帯電話等が充電できる蓄電池の設置などについて国の補助事業などの利用も含め整備を進めていきたいと考えております。その他の公園施設には、避難時の炊き出しに利用できるカマドベンチや災害時に必要な物が収納できる倉庫やベンチを設置予定でございます。今後は緊急時にテントとして利用できる遊具など災害時に活用可能な施設についても調査研究し、町民の皆様が災害時に安心・安全に避難できる場所として公園整備を進めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。ぜひお願いしたいと思えます。

先日、1月27日の日経新聞1面に蓄電池で再生可能エネルギー安定供給という見出しでもって、送電会社に対して接続に応じる義務を経済産業省の方が提案しております。この記事については多分皆様お読みだと思えますけれども、これにおいて補助事業ということをどんどん進めようということも国も積極的に提案しておりますので、ぜひ活用をお願いしたいと思えます。

それから、現在の自家発電装置でございますけれども、やはりエンジン式でやっております関係上、燃料を使って、つまり化石燃料、ゼロカーボンとはちょっと離れた部分での使用でしょう。それから、このエンジン式については、夜は騒音が激しいということで夜は使えません。ということは、夜には風力発電といったことも考慮した装置をすればいかかかなと思えますので、ぜひ脱炭素の一步を進めていただきたいと思います。

次に、さて避難所は密になることが想定されて、一定の間隔で換気が必要となってきます。特に室内で二酸化炭素濃度が設定値を超える異常に反応して警報が発せられる装置がありますが、コロナ禍の中、密集になりやすい避難所の生活に一定のメッセージがあることも住民の安心に繋がります。こういった設備の設置のご検討はされているのでしょうか、お尋ねいたします。

総務課長（泉 知典）

小川議員の密となる避難所における二酸化炭素濃度測定器の設置についてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご指摘のとおり、指定避難所につきましては多数の避難者で密となることが想定されますため、経済産業省の二酸化炭素濃度測定器の選定等に関するガイドライン等に基づき、施設管理者と協議の上、適切に導入できるよう検討してまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。ぜひお願いしたいと思います。

次に、2項目、新さぬき浜街道にアクセスする県道205号線は、昨年6月にも質問をいたしましたけれども、白方地区の新浜街道の開通に伴って、それに繋がる庄の修理免地区から山階、岡地区へのアクセス、県道多度津・丸亀線205号線の開通は、ご承知のとおり緊急の課題です。道路の整備はにぎわいづくり、そして産業の発展など多くのメリットがありますが、その肝腎な道路がいまだ着工さえもしておりません。

ここで質問いたします。急ぎ整備すべきアクセス道路ですが、その進捗はいかようになっておりましたでしょうか。

建設課長（三谷 勝則）

小川議員の県道205号線の進捗はについてのご質問に答弁をさせていただきます。

県で整備を進めていただいております県道205号線多度津・丸亀線につきましては、議員ご質問の約1.6キロの区間と奥白方地区の約0.9キロ区間は未整備でございます。県に進捗を確認したところ、平成14年度から多度津工区として整備を進めてきた県道善通寺・多度津線から県道多度津・善通寺線までのJR土讃線を跨ぐ区間のバイパスが昨年3月に完成し、引き続き今年度から県道多度津・善通寺線との交差点から西の区間の整備に着手しております。昨年11月から現地の測量を実施しているとのことでありました。本区間につきましては道路幅員が狭く、車両等の交通量も多い道路であり、小・中学校の多くの児童・生徒が通学している通学路であります。また、本県道は今年21日に開通を予定しております県道丸亀・詫間・豊浜線さぬき浜街道へのアクセス道路であり、議員のご質問にありましたように町のにぎわいづくり、産業の発展など、本町にとっては非常に優先度の高い道路整備であると考えております。今後は地元と町が連携を図り、県道205号線多度津・丸亀線の事業推進に向け県と協力体制をつくり、道路整備においては町民皆様が安全・安心に利用できるよう、交通安全対策につきましても地元の皆様のご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。本当に大変だろうと思いますけれども、県道ですから相手は香川県です。香川県としっかり相談をして強く要望をお願いしたいと思います。

多分これは皆さん方もご承知だと思います。道路をきちっと整備するということは、そこで産業が起きると、この可能性は十分あります。併せて、幅員がきちっと整備された上は、車の到来も非常に増えてまいります。交通安全の件も注意しながらお願いしたいと思っております。

以上で私、9番 小川 保の質問を終わらせていただきます。

有難うございました。